

「ドンドン語ろう！ in 幸田」 平成30年1月19日 幸田まちづくりセンター 幸田公民館ホール 意見交換内容 参加者：41名

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>(1) 自治会を低予算で運営する方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会長をしている。限られた予算でまちづくりを行うにはどうすればよいかと、いつも考えている。 ・鹿児島のあるまちでは、行政から助成金をもらわずにまちづくりを行っている事例があるようだ。真似ができることを勉強し、楽しいまちづくりを目指したい。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政に頼らないまちづくりを行っているというお話だが、鹿児島県の鹿屋市（かのやし）にある「柳谷（やねだん）」という集落にその事例がある。全国から視察に訪れる集落であり、私も視察に行った経験がある。豊重氏という大変熱心なリーダーが自治公民館長に就任して以来、若い人を呼ぼうとイベントを開催するなどしている。地域リーダーが多くの人を巻き込んでいくことはとても大事な。 ・行政の予算に限りがあるなかで、使い道の自由度が低い補助金を使う使わないの選択肢はあるだろう、また、地域の企業に協力を求め寄付を募るやり方もあるだろうと思う。 ・地域には多くの人材がいる。幸田には三万人の住人と多くの企業がいる。皆さんが少しずつ知恵を出し合い、提供できるものがあれば持ち寄る、このような地域のまちづくりが必要ではないかと、私は考えている。 ・そこに、行政として、まちづくりセンターの担当職員がコーディネートし、地域の皆さんと協力してやっていく体制が必要だろう。 	市民局	地域活動推進課
2	<p>(1) 2020年教育改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年の教育改革が持ち上がっている。今後人口能率が、現在人間がしている仕事の半分をするようになるという。それをかなえるためにプログラミング技能や考える力を養う教育が追加されると話題だ。 ・そこで、タブレット端末の導入など多額の費用をかけるようだが、それを使って思考力を養うよう市も教育長が中心となって検討していくことになるだろう。 ・しかし、教員がそこまでできるのか。教員が子どもの良い点を見つけて伸ばしてやるには、子どもと向き合う時間が必要ではないだろうか。まずは社会生活を営む力を子どもにつけなくてはならず、その上での考える力だろう。今までの知識を詰め込む教育より、ずっと時間と労力が必要だ。教育改革の理念は大変大切ないいことだが、教員に負担が大きすぎないか。 ・英会話を小学生からやらせることについて、どう考えるのか。非常に難しい課題があると思う。 ・日本語の勉強がしっかりできないうちに英会話をすることは難しいのに、全国的に進めて行くという。日本語と英語どっちつかずにならないようにするにはどうしたらよいか、考えを聞きたい。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおりかと思う。まずは思考力を高めること、対話の中から多くのことを学び取ることが一番大切なことだと認識している。そのときの補助的な道具として使い情報を入れるのがタブレット端末などのICT情報端末機器だ。便利に使いながらも、本質的には、論理的思考力、プログラミングなど次の時代を担うための能力を高めていこうとするものだと、2020年教育改革のことを認識している。 ・英会話に関しては、自分は以前ビジネスで英語を使っていた経験からいえば、言語は使えば使うほど上達するものだ。 ・しかし、まずは、日本語で思考して伝える、会話することがきちんとできることが重要である。さらに、外国人とコミュニケーションを図るには、自分の国・まちを語れなければならない。熊本の良いところはどこだと語るためには、英文法より外国人に伝える内容を勉強することが大切だ。外国語を話せるようになっても伝える中身がなければ意味がない。 ・今日は聴覚障害の方も参加していただいているが、「（手話で）お疲れ様です。少しずつ手話を勉強しています。下手ですががんばってます。」と、このようにすれば伝わる。子どもたちには、伝えようとするハートの強さも、この教育改革と一緒に学んでほしい。 ・これからの学校教育は、論理的思考力など中身の部分がとても大切になると思っており、この考え方で教育委員会とやり取りをしているところだ。 <p>-----</p> <p>【指導課 追記】</p> <p>2020年度に全面実施の小学校新学習指導要領では、「外国語活動」開始を現行の小学校5年生から小学校3年生へ早め授業時数を年間35時間確保するとともに、小学校5年生及び6年生は教科書を使う正式な教科の「外国語科」となり、授業時数が現行の35時間から70時間へと倍増する。そこで本市では、2018年度から全小学校で新学習指導要領を先行実施することとしており、外国語指導助手（ALT）については、段階的に拡充し、学習指導要領の全面改訂となる2020年度の前年度までに、ALTの活用授業時数割合を全国平均並みを目指しており、については教職員の負担軽減にもつながるものとする。</p>	教育委員会	指導課

「ドンドン語ろう！ in 幸田」 平成30年1月19日 幸田まちづくりセンター 幸田公民館ホール 意見交換内容 参加者：41名

No.	ご意見	回答	局	担当課
2	<p>(2) 御幸神社前の交差点工事の進捗について ・あと少しで完了と見えるのに、どうして工事が進まないのか。</p>	<p>【西部土木センター】 ・県道神水川尻線が、笛田神社前で県道田迎木原線と交差するまでの90メートルの区間は、線形不良で幅員も狭く車の離合が困難な状態にあるため、平成11年度から拡幅工事を行っているところ。現在は、交差点の真下にある大きな水路部分について、拡幅工事のための用地買収が済んでいるのに進まないのかと疑問をお持ちのことかと思う。 ・用地買収後、これから工事というときに地震が起こり中断した。その後、今年度（平成29年度）に予算が付いたので水路の水が落ちる秋から着工の計画でいたが、3回入札不調という状況である。建設業界の人員不足の影響からかとも思うが、4回目の入札でなんとか業者を選定し、農業用水路に水を張る5月までには完了したいと考えている。</p> <p>【市長】 ・できるだけ早くするため、土木センターも引き続き頑張るとのこと、ご理解いただきたい。</p> <p>-----</p> <p>【西部土木センター 道路課 追記】 その後、4回目の入札も不調（H30.1.24）となったことから、水路工事の施工を5月までに終らせることが困難となったため、新年度に予定していた舗装工事と合わせて発注する等の全体スケジュールの見直しを行い、地元自治会等の了解を得た。 発言者にも連絡済み（H30年2月）。新年度に入ってから余裕工期等を加味した5回目の工事発注を行い、H30年度内の供用開始を目指す。</p>	都市建設局	西部土木センター
2	<p>(3) バスの便数について ・熊本バスの木部線が一時間に一本しかない。将来は二時間に一本になるのでないかと心配だ。</p>	<p>【市長】 ・いま、熊本ではマイカーが増え、公共交通機関に乗らないために、バスの便が減少している。渋滞も激しい。 市電を延伸し、バス網全体を再編するなど、もう少し公共交通機関の利便性を高めて、皆さんがマイカーよりバスに乗ろう、その方が便利で安心だと思えるようにしていきたいと考えている。 おたずねの路線も含め便が減少しないよう補助金も出しているため、関係機関と話し合いながらバス網の再編をしたい。</p>	都市建設局	交通政策課
3	<p>(1) 道の駅の設置について ・交流人口の増加や地域の活性化のため、御幸地区に道の駅を作ってほしい。まちづくりの大きな起爆剤になるのではないかと思う。 北にはすいかの里、東には阿蘇、西には新幹線での活性化。南には、道の駅を設置してほしい。</p>	<p>【市長】 ・「すいかの里植木」は、熊本市で初めての道の駅である。その土地の名産、農産物を直売できることはプラスだった。御幸周辺に道の駅を設置すると、今ここで明言できるものではないが、ご意見のとおり、まちづくりには効果があると思うので、市の中心部だけでなく、回遊性を高めるようなエリアごとの拠点を作っていくべきだと思う。 南区から気軽に行けるとところに、ほかにもいくつかの直売所がある。規制の問題もあるが、少しずつ考えていきたい。ご提案をありがたく心に留めおきたい。</p>	農水局 都市建設局	農業・ブランド戦略課 道路整備課

「ドンドン語ろう！ in 幸田」 平成30年1月19日 幸田まちづくりセンター 幸田公民館ホール 意見交換内容 参加者：41名

No.	ご意見	回答	局	担当課
4	<p>(1) 南部総合スポーツセンターのプール利用時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域には、浜線健康パーク、南部総合スポーツセンター、アクアドームなど健康づくりに資する施設がある。私も利用しており、体力づくりに励んでいる。 ・南部総合スポーツセンターのプールは、利用時間が正午からとなっているが、午前10時から利用できるようにしてほしい。 ・アクアドームは70歳以下は500円と、使用料が高い。無料で利用できる70歳以上の利用客が大半を占める。このままで経営は大丈夫なのか。見直しの予定はあるのか。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料金を少しいただいても皆さんに泳いでいただくほうが健康づくりのためにはいいのではないかと思う。 ・南部総合スポーツセンターは、夏場は午前10時から利用できるが冬場は正午からとのことらしい。冬場も10時から利用できないか、持ち帰らせていただき、検討させていただきたい。 ・アクアドームの料金設定については、難しいかもしれない。健康のために運動を続けていただくことが大切なので、マイレージのように利用した分料金が下がる、健診を受けたらスポーツセンターの利用券がもらえるなど、健康づくりに前向きになるような仕掛けがあればよいと思う。 ・医療費が上がらないための予防、健診、健康づくりなどを重視していきたいので、今後も提案があればぜひお聞かせいただきたい。参考にさせていただく。 <p>-----</p> <p>【スポーツ振興課 対応経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部スポーツセンタープールの営業時間について、2月6日に発言者へ以下のとおり電話で説明した。 ・現在、南部スポーツセンタープールの利用時間は7月から9月までは午前10時から午後9時まで、10月から6月までは正午から午後8時までの利用となっている。 ・この利用時間は熊本市体育施設条例に基づき南部スポーツセンターのオープン時から設定しているものである。 ・設定理由としては、夏場（7～9月）以外での利用者数が少ないことと、プールの水温（約29度に設定）が、夏場以外では閉館時間中に温度が下がり、設定温度まで上昇させるまで時間がかかるという理由でこの時間設定での開館としており、利用時間の変更等については現設備では難しいのが現状である。 ・連絡した際の発言者からの要望 ・現段階での営業時間については了解したが、今後機械設備のバージョンアップ等を検討してもらいたい。 	経済観光局	スポーツ振興課
5	<p>(1) 熊本城ホールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本城ホールの地下から屋上フロアまでのうち、ワンフロアを地域防災に対応できるようにできないか。衣食住に対応でき、泊まることできないか。 ・熊本地震でグランメッセが使えなかったことを考え、現在、建設しようとしている熊本城ホールならまだ設計変更が可能ではないだろうか。検討してほしい。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本城ホールについては、熊本地震のあと設計を一旦凍結させ、エリア防災も含め防災機能を強化したらOKとした。 ・熊本城ホールを含む桜町再開発施設では、一時帰宅困難者の受け入れは1万1千人、食料は1万3千人を三日分備蓄しており、物資対応、一時避難場所として帰宅困難者対応などが可能となっている。 ・商業施設は、普段は買い物をするところだが、いざというときには流通の備蓄を自治体を買うので物資として提供してほしいとお願いしている。これは、流通備蓄という考え方だ。 ・また、近くにある国立病院機構熊本医療センターとの連携を検討しており、シンボルプロムナードや（仮称）花畑広場にも防災機能をもたせる予定としている。 ・このようなエリア防災の考え方は、これからできる熊本駅前にも取り入れ、駅前広場を広くするなど（ボランティアセンターを設置できるように）、防災機能を高める設計をしていきたい。 	<p>経済観光局</p> <p>都市建設局</p>	<p>新ホールマネジメント課</p> <p>都心活性推進課</p> <p>熊本駅周辺整備事務所</p>

「ドンドン語ろう！ in 幸田」 平成30年1月19日 幸田まちづくりセンター 幸田公民館ホール 意見交換内容 参加者：41名

No.	ご意見	回答	局	担当課
5	<p>(2) 地域活動に市職員の活用を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金の支給開始年齢が70歳。70歳まで勤めなければならないとなれば、自治会の役員は現実的には70歳からになるだろう。 ・地域防災が大切だがというが、その担い手となる人材が高齢化しており、特に震災時には70歳以上の者は働けないと思う。 ・一方で、市の職員は若い。定年延長の話もあるが、その間の世代をどう使っていくか。市職員で自治会の加入者（自治会役員のことと思われる）はほとんどいない。率先して市職員が地域に出てきてほしい。 ・地域防災リーダーなどは、市でフリーの職員を率先して出して勉強させてはどうか。2050年には子どもが減り、小学校が減ると試算がある。つまり教職員が余るので、この人材を地域防災リーダーに割り振りできないか。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会に出てこれようになるのが70歳くらいからになるのではないかとお話だった。自治会長の平均は熊本市で69歳だが、例えば高知県では最年少が75歳であり熊本市はまだ若い方である。しかし、勤め人など40～50代の人とはなかなか平素から地域活動に参加することは難しい状況があるようだ。 ・自治会職員が定年退職後に自治会に参加するということは考えているところ。 ・また、すでにその地域に住んでいる市職員のなかから避難所を開設する担当を何人が決めたりなど取組を始めている。さらに、地域担当職員を配置し、地域のみなさんと一緒になって活動できる雰囲気づくりをしているところ。 ・防災担当職員となるリーダー作りだが、これは、防災士の資格を取るように予算査定なども行っているところだ。郵便局の局長さんは、防災士の資格を持っているので、そのような方々とのネットワークを作ってはいかかかと考えている。 ・人材をもっとフレキシブルに使ってはどうかとの趣旨のご提案かと思う。がんばっていききたい。 <p>-----</p> <p>【教職員課 追記】</p> <p>学校数の減少に合せて、教職員定数も減少するので、教職員が余るということはない。</p>	<p>政策局 総務局 市民局 教育委員会</p>	<p>危機管理防災総室 人事課 地域活動推進課 地域政策課 教職員課</p>
6	<p>(1) 地域における高齢者の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が労働人口に加わることで大きな力になる。私は85歳になるが「幸田まちづくりサポーター」に申請しており、自分にながでできるか楽しみにしているところだ。高齢者でも働ける人、意欲がある人を活用してほしい。 ・例えば、血液センターでは、自分の労働時間を金ではなく代償としてクーポンにして受け取る。クーポンは本人も家族も使えるようにすれば、お金を使わずにすむし、安心につながる。高齢者が心配するのは老後の介護を誰にってもらうか、どういう状態になるかであり、それを気にしてお金を使わないようになる。クーポンで返ってくるなら安心して金を使えるようになり、消費も拡大するのではなかろうか。 ・血液バンクのような仕組みで、高齢者を活用できれば、非常に有益ではなかろうか。地域が活性化し、それを行政がサポートしてくれればと思う。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・85歳にはみえない。ぜひ、まちづくりサポーターとして活躍いただきたい。 ・健康で長生きされる方は、地域の人材として活動していただくべき。 ・クーポンの話があったが、なんらかの仕組みをもって、安心して暮らしていただく、地域の役割を担っていただくことが大切であり、高齢者の方の活躍の場を作っていくことが行政の任務と考えている。がんばっていききたい。 <p>-----</p> <p>【高齢介護福祉課 追記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、「介護保険サポーターポイント制度」を実施している。具体的には、サポーター登録した方が、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及びそれらに併設されるグループホーム等において、食事配膳等のボランティア活動を行った場合にポイントを付与し、獲得したポイントに応じ換金している。サポーターへの登録、事業内容の詳細については、熊本市社会福祉協議会へ問い合わせいただきたい。 	健康福祉局	高齢介護福祉課
7	<p>(1) コミュニティセンターの電気設備等の更新について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターの事務管理人をしている。当センターは年間1500団体、約18000人の利用があり、今年で20周年を迎える。 ・全体に老朽化がすすみ、とくに電気設備等エアコンの老朽化が激しく、毎年複数台が故障し、そのたびに南区役所に現地確認、説明している。審査会の審査待ちで1～2ヶ月を要し、その間故障をかかえたまま事務運営に支障をきたしている。 ・公用車の買い替えと同じように、コミュニティセンターの電気設備等も迅速に計画的に更新してほしい。また、審査を迅速にしてほしい。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターの電気設備の修理などは、スピーディにやるべきだと思う。この件は、南区長がまず具体的に話をお聞きするというところでよろしいか。（発言者：すでに修理は済んでいるので、今後、迅速な対応をお願いしたい。） ・今後の課題として持ち帰らせていただく。 <p>-----</p> <p>【南区総務企画課 追記】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティセンターからの修繕依頼については、早急に現場確認し、状況に応じた迅速な対応に努める。 	南区役所	総務企画課

「ドンドン語ろう！ in 幸田」 平成30年1月19日 幸田まちづくりセンター 幸田公民館ホール 意見交換内容 参加者：41名

No.	ご意見	回答	局	担当課
8	<p>(1) 街灯の設置について ・浜線健康パークから浜線バイパスへ向かう道路の道が暗いので危ない。外灯の設置をお願いする。</p>	<p>【西部土木センター所長】 ・街灯を点けると農地に支障がないかなど、周囲の状況の確認が必要であり、住宅があれば地元自治会との調整も必要となる。のちほど場所を詳細に教えていただき、確認させていただきたい。 ・大規模店舗ができることとことだが、今いただいた情報を見ると県道、市道に面したところのようだ。小学校、中学校の通学路にもなっているかと思う。土木センターへのよくある問合せとしては、警察との協議のあとに、乗り入れ口などにおける安全面からの右折レーンの設置の相談などであり、そのような相談が想定される。 安全面を含めた全体については、また別の部署になるので、その部署にも確認を取り、後日回答させていただきたい。</p> <p>【市長】 ・業者が開く説明会に出席されるのであれば、疑問等を直接お尋ねいただければと思う。関係部署がどこか、のちほど調べる。 安全面はしっかり取り組んでいるかを注意していかなくてはならない。一方で、賑わいが出るといことで歓迎される住民の方もおられるだろう。総合的に考えていきたい。</p> <p>-----</p> <p>【西部土木センター道路課 対応経緯】(街灯について) その後、地元より要望書を受領済み。 設置場所等について地元調整を行い、平成30年度に照明灯の設置ができるよう計画したい。</p> <p>【西部土木センター総務課 対応経緯】(大規模店舗について) 本案件は、大店法に基づく事前相談が以前から行われており、土木センターにおいては、水路への橋かけの許認可業務を所管しているところから、当該事業地と一般県道熊本浜線との間にある水路への乗り入れ口設置(橋かけ)について協議を重ねている。 今回「ドンドン語ろう！ in 幸田」にて頂いたご意見についても、その後の打ち合わせの中で相手方にお伝えし、近隣住民の方々と充分協議をするよう指導を行っている。</p>	都市建設局	西部土木センター
8	<p>(2) ・先日、大規模立地法に基づく説明会のチラシが自宅に入っていた。近所に大きな商業施設がテナントも入るとのこと。通学路でもあり通勤者もいるので、非常に混雑するだろう。国・県・市・警察など合同で話し合っほしい。</p>	<p>【商業金融課 対応経緯】 大規模小売店舗立地法に基づき、「APタウン田井島」という名称で届出がなされている商業施設であり、ディスカウントストア等が入居予定。 周辺道路への影響等については、設置者側が交通量調査を実施し、県警本部交通規制課と協議済みである。 交通渋滞については、店舗の開店時刻は9時のため、朝の通勤・通学時間帯に与える影響は少ないと考える。また、夕方の混雑時については、県道側の出入り口に左折入庫・左折出庫を促す看板を設置することにより店舗の入出庫車両による渋滞を防ぐように計画されている。 さらに、店舗東側の市道は狭く通学路にも指定されているため車両が進まないよう看板を設置し、オープン時や繁忙時には交通誘導員を配置して安全対策に努めていくよう設置者に指導しているところ。 (3/15 商業金融課 担当職員から発言者宛に上記内容を電話にて回答し、発言者了承済み。)</p>	<p>経済観光局 都市建設局 南区役所</p>	<p>商業金融課 西部土木センター 幸田まちづくりセンター</p>

「ドンドン語ろう！ in 幸田」 平成30年1月19日 幸田まちづくりセンター 幸田公民館ホール 意見交換内容 参加者：41名

No.	ご意見	回答	局	担当課
8	<p>(3) 田迎南小学校について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田迎南小学校は昭和59年に田んぼの中に建てられた。近年、田んぼを埋め宅地化された。小学校はプレハブ校舎を建増しして対応しているが、抜本的に校舎を建設してはどうか。 ・小学校に大人の背丈の二倍ほどの高さになるサザンカの木が7本植えられている。サザンカやツバキには、毒をもつチャドクガ（目に見えないほどの小さな虫）が発生する。刺されると真っ赤になる。このような樹木は小学校に植えないほうがよいのではないか。 	<p>【教育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田迎南小学校の周囲に住宅地があり、今後児童数が増加する見込みである。現在は不足する教室についてプレハブ校舎で対応しているが、長期的に不足することが予想されるのであれば、校舎の増築を検討していきたい。 ・学校では、ある程度の植樹をすすめている。サザンカは肥後六花のひとつでもあるため植樹している状況だ。しかし、チャドクガの発生は、子どもたちに影響があることから、消毒（子どもたちに影響がない範囲での消毒）で対応をしている。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャドクガについては、教育委員会と環境局とで連携して対応していく。（環境共生課と調査するよう、市長からの指示あり。） <p>-----</p> <p>【施設課 追記】</p> <p>チャドクガの対応としては、花期が終わったら、風通しをよくするため、学校で剪定を実施するよう依頼済み。</p> <p>また、万一、チャドクガが発生した場合は、基本的に学校で駆除を行い、学校が対応できない場合は、教育委員会施設課において駆除することで学校と調整を図った。</p> <p>【環境共生課 追記】</p> <p>市施設ごとに適正な緑化管理が行なえるよう、環境局では緑化技術向上研修などを実施しており、チャドクガについても、その中で必要に応じ助言等を行なっていく。</p>	<p>環境局 教育委員会</p>	<p>環境共生課 施設課</p>
8	<p>(4) 市電の延伸について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーワールドカップまでに市電を延伸してほしい。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーワールドカップまでに市電を延伸することは、難しい。 ・市電は、人にも環境にもやさしい。延伸ルートを検討しているが、乗り換えがしやすい、接続がいい、雨に濡れないとなれば、皆さんが公共交通機関を利用するようになると思う。公共交通機関の整備をすすめていきたい。今日のこの会で、皆さんにも利用したいという思いがあるということがよくわかった。 	<p>都市建設局</p>	<p>交通政策課</p>

「ドンドン語ろう！ in 幸田」 平成30年1月19日 幸田まちづくりセンター 幸田公民館ホール 意見交換内容 参加者：41名

No.	ご意見	回答	局	担当課
8	<p>(5) 戦争の体験について ・わたしは83歳。熊本空襲のときに市中心部に住んでいて焼夷弾が直撃した悲惨な光景を目の当たりにした。語り部にしていただけたら、空襲の話ができる。</p>	<p>【市長】 ・ぜひ、語り部としてご活躍いただきたい。若い人が戦争の体験の話を書く機会は、必要だ。</p> <p>-----</p> <p>【生涯学習課 追記】 大変ありがたいご意見である。体験にもとづいたお話を聴くことは、たいへん貴重であると考えられる。 熊本市生涯学習情報システム「わくわく学習情報くまもと」では、講座・イベント情報の他、生涯学習課に申請をしていただくと、講師・指導者情報として掲載している。依頼希望の学習グループ等があれば、直接連絡が入り打合せをしていただくシステムである。 また、公立公民館では、おでかけ公民館講座を開催している。地域団体や学校、PTA等からの相談・要望を受け、ニーズに応じて講師紹介・派遣等を行っている。活動範囲を示していただければその範囲に対応した公民館へ情報提供をしたい。</p> <p>【指導課 追記】 小・中学校では、平和教育の一環に特別活動として、学校行事や国民の祝日などをテーマに平和の重要性を学ぶとともに、修学旅行では全小学校が長崎を、一部の中学校では広島や沖縄を修学旅行地に選ぶなど、体験学習や被爆体験談などを通じて平和の尊さを学んでいる。 このような機会を通じて体験談を伝えることは可能と思われるので、お近くの小学校、中学校にご相談されてはいかがでしょうか。</p>	<p>教育委員会 市民局</p>	<p>指導課 生涯学習課</p>
9	<p>(1) 農業政策と道路整備について ・幸田管内は住人が3万人とのことだが、御幸木部は300軒ほどの小さな地区だ。市街化調整区域ということで、線引きがあり、非常に不公平であると思う。 人口減少ということではあるが、農業行政をどう考えているのか。 このあたりは、ほとんどが米作である。農用地区域をはずすよう担当課に要望したり、御幸地区として川尻から健軍までのバイパス道路を建設してほしいと、県議、市議に要望するが、話が進まない。 震災復興で大変な時期だと思うが、インフラ整備として、南部地区の農業施策と道路事業を、どう考えているのか。</p>	<p>【市長】 ・市街化調整区域など、線引きの話は難しいところがある。実際には、開発させない法律である。 ・人口が減る中でどんどん開発することはいかなものかという話でもある。 ・一方で、現在、この道路で農地が分断されてしまったり、農地として機能していないところもあるので、規制も含めて見直す必要もあるのではないかなと思う。 ・逆に、農地としてまとまっていて生産性が高いものについては、分けて考えていく必要がある。 ・農水局、都市建設局と一緒に、現状を踏まえて考えていければと思う。ただし、基本的には、かなりの規制があるということと、自治体だけでは解決できない問題であることをご理解いただきたい。</p>	<p>農水局 都市建設局 農業委員会</p>	<p>農業・ブランド戦略課 都市政策課 農業委員会</p>